

坂東市

岩井 将門まつり



ところ／市内商店街・國王神社
とき／毎年11月第2日曜日（雨天中止）

見どころ

将門まつりは、郷土の英雄「平将門公」の勇姿を現代によみがえらせようと、昭和47年に始まり、毎年11月に行われ、秋を彩る風物詩として、市内外の人たちから親しまれています。

まつりは、國王神社のうっそうとした杉並木を総勢100名の武者が「神田明神将門太鼓」の勇壮な響きのなかを進み、武者の参詣シーンである戦勝祈願で始まります。出陣式には、地元高校生等による弓道模範演武が披露され、武者行列は、可愛らしい稚児行列等とともに神田ばやし（県指定無形民俗文化財）のお囃子によって歩行者天国を練り歩きます。まつりの最後には、神田ばやしの山車が競演し、ここに岩井将門太鼓と神田明神将門太鼓が加わりクライマックスに達します。

【お問い合わせ】 茨城県坂東市観光協会 ☎0297-20-8666
ホームページアドレス <http://bandokanko.jp/>

沿革

「平将門」は、今から1,000有余年前、関八州を手中におさめ、自ら「新皇」と称した英雄である。

天慶3年(940)2月14日、将門は坂東市岩井の北山の戦いで藤原秀郷、平貞盛らの連合軍に破れる。(後に天慶の乱という。)

短い生涯を民衆と共に生きた「将門」を当時の政府は反逆者とした。國王神社に祀られている「将門座像」(県指定文化財)は、寄木造りの衣冠束帯姿で将門の娘「如蔵尼」が父の33回忌(天禄3年-972年)に刻んだものと伝えられている。

由来

この地元の英雄「平将門」の勇姿を現代によみがえらせようと、昭和47年に「将門まつり」が始められた。各地に残されている将門の史跡を、長い間、あがめ親しみ守ってきた郷土の先人は、いろいろと苦勞されたことであろう。昭和51年に、NHKの大河ドラマ「風と雲と虹と」の放映、また、多くの人々の普及運動や、歴史研究の進歩によって「将門」も見直され、我が坂東市も平安の郷として広く世間に知られるようになった。



神田ばやし



神田ばやしは、一名「将門ばやし」ともいう。「平将門」が坂東市の草分けとしての平安時代、その本陣で行われた勇壮な軍楽であったといわれる。古く神山山に伝わり、その口伝をもとに伝承されている。古典的技曲の横笛や太鼓の厳しく響く音そして手平鐘とあわせ、はやし方の「バチ」さばきは、将門の正義感のこもった気迫がある。昭和49年11月県指定無形民俗文化財となる。



【交通案内】

- 東武野田線愛宕駅下車バス岩井行30分
- 関東鉄道常総線水海道駅下車バス岩井行30分
- つくばエクスプレス守谷駅下車バス岩井行30分